



学校だより

練馬区立光が丘第一中学校

平成 28 年 3 月 1 日発行

<http://www.hikarigaoka1-j.nerima-ky.ed.jp>

新たな門出のために 校長 境 田 聡



3年生の進路選択の期間も、残すところあとわずかになりました。校長室に進路決定の報告に来てくれる3年生の顔には、充実感と達成感にあふれています。長い間、いろいろ悩み、迷い、不安になることがあったと思います。それを乗り越え、自らの力で手にした進路決定です。心からおめでとうと祝福したいと思います。

さらに、これまで自分を支えてくれた人たちに、感謝することを忘れないでほしいと思います。よく自分の周囲を見回してください。友だち、保護者の方、学校の先生、そのほかの人たちが、皆さんの進路選択のために一緒に悩み、心配し、応援をしてくれたことでしょう。そして、いつか皆さんもまた自らの道を開こうとしている人に会った時、応援してやることのできる人になってください。

3年生は、光が丘第一中学校での残り少ない生活を悔いのないようにしましょう。卒業式だけでなく、救命救急講習や校外学習など、多くの行事があります。1つ1つの行事を大切に、よき光が丘第一中学校の伝統を築いてほしいと思います。

さて、1・2年生は、この1年の締めくくりの時期を迎えています。3年生を心を込めて送る準備、4月からは自分自身がそれぞれ2年生、3年生となる心構えはできていますか。あと1カ月の期間があります。この1年間のまとめとして、よい卒業式を迎えるための準備を進めると同時に、進級するうえでの新たな目標や決意を考えておいてください。そして、4月からは新入生を迎え、新しい光が丘第一中学校の中心として活躍することを期待します。

3月の予定

| | | |
|-----|-----|----------------------|
| 1日 | (火) | スキー教室代休(2年) |
| 2日 | (水) | 都立一般入試発表 スキー教室代休(2年) |
| 3日 | (木) | 小中一貫研修 |
| 7日 | (月) | 全校朝礼 |
| 8日 | (火) | 専門委員会 |
| 11日 | (金) | 校外学習(3年) |
| 18日 | (金) | 第32回卒業式 |
| 21日 | (月) | 振替休日 |
| 24日 | (木) | 保護者会 |
| 25日 | (金) | 修了式 |

光一中生の活躍

練馬区ジュニアカップ

男子バスケットボール 1位、

女子バスケットボール 1位

「考えよう！私たちの快適な住まい」

読后感想文コンクール

佳作

おめでとうございます



保護者アンケート、生徒アンケートをもとに平成 27 年度の学校評価を行いました。保護者の皆様に報告させていただきます。ご協力ありがとうございました。

平成 27 年度 練馬区立光が丘第一中学校 学校評価報告書

1 自己評価結果

(1) 概要 (達成率は学校評価アンケートの平均値で算出した)

【重点目標 1】 基礎・基本の学習内容の定着 達成率約 71.9% (昨年 76.5%)

学習指導要領に則った授業改善を進めながら「わかる授業の実践」を中心におこなった。研究授業週間を設け、互いの授業観察を通して教員の自己の授業を振り返り、生徒には繰り返しの学習によって基礎・基本の学習内容の定着を目指した。

① わかる授業、喜びのある授業の展開

《方策》授業評価の実施により意欲を引き出す教材の工夫や指導技術を高める

教員は生徒の実態を捉え夏季休業中に授業改善推進プランを作成し公表した。自己の授業改善を行った取り組み指標は 93% と高い反面、生徒や保護者の成果指標は 67% と開きがある。生徒には家庭学習も含めて繰り返し指導するとともに生徒の実態を捉えて授業方法など改善を進める。

本校は、小中一貫教育実践校として「義務教育 9 年間」を見通した学習の研究を行っている。小学校の既習事項を振り返り、中学校の学習につなげ、繰り返しの学習を意識した授業を行う。小学校との授業研究を続け 9 年間を見通したカリキュラム作りを進める。

《方策》授業規律の確立・落ちついた学習環境を整える

「授業が始まる前に、必要な道具を机の上に準備している」に「そう思う」「ややそう思う」(以下「そう思う」と解釈する) と回答した 88% (昨年 82%) とやや改善が見られた。「私語をする生徒がいると注意し合う学級ができています」としたのは 45% (昨年 23%) であった。学習に対する姿勢は改善に向かいつつある。授業規律とともに授業改善を進め生徒にとって魅力ある授業にしていく。

《方策》評価計画を明示し、自己評価や成績表をもとに面談を行い、課題を理解させるとともに生徒の意欲を引き出す

自分の「評価・評定に納得している」生徒は 74% (昨年 62%) であった。これからも、評価について生徒が自覚した上で意欲を引き出す指導が必要である。また、「保護者、生徒の評価に関する説明」は引き続き、各教科で説明を果たしながら改善をすすめる。

② 読書・図書館活用の習慣を身に付ける

《方策》朝読書の定着、図書館利用を教科等で推進する

図書館管理員の配置がなくなっても、保護者ボランティアや図書委員の活躍で図書館の環境は良い状態が続いている。生徒もマナー良く学校図書館を使用している。朝読書も定着しているが、家庭での読書時間の増加に至っていない。また教員が教科等で図書館利用が進んでいない。総合的な学習以外でも教科での調べ学習に活用するよう取り組む。

【重点目標 2】 健康で調和のとれた生徒の育成 達成率約 88.5% (昨年 85.5%)

① 生徒の実態把握と共感的理解

《方策》いじめ防止、不登校未然防止を図る

「いじめを防止する学校になっているか」の質問に 76% (昨年 53%) の生徒が「そう思う」としている。100% を目指すべき質問であるのでまだ課題である。「人の嫌がる言葉、傷つける言葉は言わないように心掛けている」は 87% (昨年 79%) がそう思うとしている。また、保護者は 79% (昨年 80%) が学校のいじめに対する取り組みを評価している。今後も「いじめ防止基本方針」にそって、生徒会、部活動を含めすべての場面でいじめを防止する意識を高めていく必要がある。また、生

徒の観察や保護者や地域の情報に敏感になるとともに SNS 校内ルールの作成、スマートフォン等によるネットいじめに関しても啓発・指導を続ける必要がある。

《方策》生徒、保護者との信頼関係を築く連絡、教育活動の推進

「保護者との信頼関係を築く連絡、教育相談活動の推進」の教員による取り組み指標が 93%（昨年 93%）と積極的に取り組んできた。保護者や生徒による成果指標は 72%（昨年 63%）と改善はしつつも教員との差がある。生徒アンケートで「学校や学級は過ごしやすい」との問いに 89%（昨年 69%）が「そう思う」と回答し、「問題があったときは先生や保護者に相談している」は 64%（昨年 46%）、「困ったことがあれば相談室を利用したい」は 45%（昨年 31%）と改善は見られるものの十分ではない。相談室を充実させるべく、スクールカウンセラーと心の相談員との連携、担任や養護教諭との情報交換を引き続きおこなう。生徒の悩みや困っていることの解決に少しでも役立てるような相談室の運営を目指していく。

② 基本的な生活習慣の確立

《方策》挨拶の励行・社会でのマナーの指導を行う

挨拶の励行や校外学習などでのマナーについての指導を継続的におこなった。保護者 80%（昨年 77%）、生徒 76%（昨年 77%）が「挨拶ができています」と回答があった。小中学校を通じて、生徒会の挨拶運動、部活動、学級指導においても挨拶指導をおこない、挨拶ができる生徒の育成を図る。また、体験学習など校外への学習活動では、生徒の 94%（昨年 89%）が「校外学習などの校外での生活では、社会のマナーに気を付けて行動している」と回答している。今後も続けていきたい。

③ 規範意識・人権意識の育成

《方策》体罰・暴力のない学校づくりを行う

「本校の先生は、体罰を行わない」との問いに生徒のアンケートでは 92%（昨年 81%）が「そう思う」としている。同様な質問に保護者アンケートでは 94%（昨年 95%）が「そう思う」としている。生徒間の暴力行為について防止を図っていく。自由意見の中に教員の言動についてご意見をいただいた。今後も、東京都教育委員会が発行している人権教育プログラムの活用や道徳、全教科、部活動を含めあらゆる場面で、人権尊重の態度を育成する。さらに教員が自身の振る舞い、言動を見直しながら人権意識を高めていく。

【重点目標 3】 生きる喜びと感動のある学校 達成率約 92.0%（昨年 86.3%）

① 学校行事の充実

《方策》活躍の場を与え、個と集団の成長を図る。

保護者は「学校は、お子様が活躍できる場を設けている」に 79%（昨年 82%）が「そう思う」としており、生徒は「学校には自分が活躍できる場がある」との問いに「そう思う」は 75%（昨年 56%）であった。昨年度の課題であった、保護者と生徒の意識の差を縮めることはできた。今後も多くの生徒が、活動の場をもち、達成感が得られるように、行事・教科指導・学級指導を通して意図的、計画的に取り組む。

② 生きる力をはぐくむ

《方策》校外学習・体験学習を通して、自ら考え行動する力、将来について考える力を身に付ける。

保護者は体験学習の成果を好意的にとらえている。「生きる力を身に付けるのに役立っている」に 89%（昨年 90%）が「そう思う」とした。生徒も「職業調べや職場体験を通して将来の夢や目標を明確にもてるようになった」に 63%（昨年 55%）が「そう思う」と答えている。それぞれの取組の際に個人が目標を設定できるように推進し、それに基づいた評価を行うことで、「生きる力」に結びつけるように指導していく。

③ 健康・安全指導の充実

《方策》生徒の安全を第一にした計画的な生活指導

保護者の「本校の活動は安全に配慮し、計画的に実行されている」は93%（昨年95%）が「そう思う」、生徒は「防災や安全について知識や行動が身に付いている」に87%（昨年77%）が「そう思う」とした。今年度は防災フェスタも開かれ地域と共に防災意識も上がった。今後も繰り返し指導や訓練を行うことで避難行動を身につけさせるとともに自助から共助について意識を持たせたい。

【重点目標4】 家庭や地域との連携 達成率約77%（昨年93%）

保護者と共同して義務教育9年間を見通して生徒の育成を図る

《方策》小中一貫教育研究の推進

小中一貫教育実践校として年間計画に基づいて実施できた。保護者アンケートによると「研究活動を知っている」は77%（昨年79%）であった。めざす児童・生徒像を示すとともに9年間を見通したカリキュラムに基づく実践、改善を行う。保護者や地域の方とともに児童・生徒の健全育成に努める。

《方策》ホームページ、メール、電話、面談を通して保護者と綿密に連携する

ホームページ、メールを活用し学校の情報を伝えた。88%（昨年90%）の保護者が役立ったと回答した。未登録の保護者家庭があるので引き続き登録のお願いをしていく。

ホームページの更新についてご意見をいただいた。これらの意見も参考にして改善を図り家庭との連携を密にしていく。また、ホームページを見られない保護者への連携も引き続き取り組んでいく。

2 学校関係者評価

【学力向上について】

来年度より3学期制になります。定期考査は4回ということですが、学力向上は保護者が最も望むことです。授業が分かることが最も大切なことです。学力をつけさせて欲しい。先生方も学力は課題に思っているようなのでよろしくお願いします。

【健全育成】

・食物アレルギーについて

食物アレルギーをもつ生徒が多くなってきているようです。様々な生徒がいて大変だと思いますがよろしくお願いします。命にかかわることもあります。それとは別に、成長と共に自分の体のことを知ることも必要です。その日の体調によっても違うことや成長していくと変化することもあります。今までは親や先生に任せていたと思います。大人に成長していくわけですから、自分の体調は自分で管理できるような人に成長してもらいたい。

・いじめや言葉遣いについて

いじめは絶対にあってはならないものです。生徒だけではなく保護者にも情報を与え連携して防止に努めてもらいたい。また教員の言葉遣いですが、感情的になって叱る場面もあると思います。しかし不適切な表現になってしまいますと逆な効果が出てしまいます。3回深呼吸などして冷静な対応をお願いします。

・スマートフォン、携帯電話、ゲーム機等について

いつも話題になりますが、個人情報にもあたります。引き続き保護者への啓発や小学生の時から持っているとのことですから、小学校とも連携しながら今後も対応をお願いします。

3 評価結果の公表等

(1) ホームページに自己評価と関係者評価の公表

(2) 学校だよりで学校評価報告書の全保護者への報告